

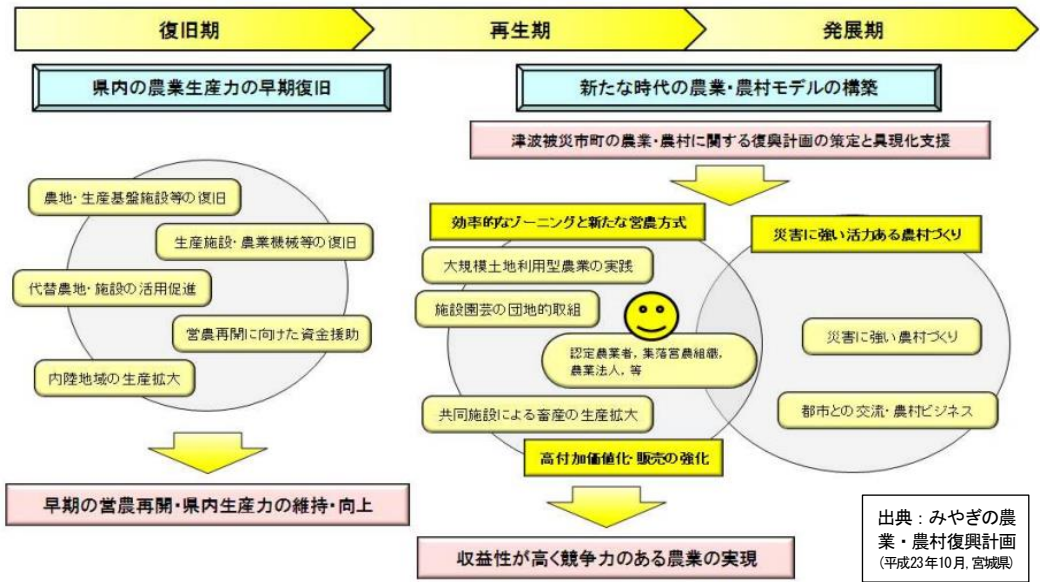
派遣先所属 宮城県農林水産部農地復興推進室
 氏 名 天野 篤 (あまの あつし)
 派遣期間 平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の農地復興推進室は、東日本大震災復興交付金「農山漁村地域復興基盤総合整備事業」を活用し、市町の復興計画との整合を図りながら、大区画ほ場整備による担い手の規模拡大や、農地の汎用化による農産物の高付加価値化を進め、競争力ある経営体の育成を目指して取り組んでいます。また、復興に必要な公共用地の創出や防災集団移転促進事業による住宅跡地の集積・再配置など土地改良換地制度を用いた土地利用の整序化を行っています。

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災では、地震の揺れ、大津波、地盤沈下で、沿岸部の穀倉地帯を中心に甚大な被害が生じました。たくさんの人々が亡くなり、農地、生産基盤施設、農業生産施設を始め、流通・加工等の関連産業施設が失われ、食料供給基地としての機能が大きく損なわれました。このため宮城県では、次の 5 つの基本理念を掲げ、農業・農村の新たな復興に向けた取り組みを進めています。

- 基本理念 1：災害に強く安心して暮らせる農村づくり
- 基本理念 2：農業者が主体・すべての県民を含め総力を結集した復興
- 基本理念 3：効率的な土地利用と営農方式の導入による地域農業の「再構築」
- 基本理念 4：次世代を担う競争力のある農業経営体を育成
- 基本理念 5：壊滅的な被害からの復興モデルの構築



担当業務は、気仙沼市、石巻市、南三陸町、松島町、七ヶ浜町の 5 市町における復興基盤総合整備事業で、いずれも震災後、新たにほ場整備に着手している地区です。

現在、来年度予算要求が佳境で、宮城県職員、青森県派遣職員と分担して、締め切りに追われる毎日を過ごしています。任期付採用で、公職自体初めてかつ農業・農村分野に縁遠かったこと

から室の方々に教わり助けられながら、日々の職務をこなしている状況です。こちらへ来て半年余り、もし2年、3年と勤める機会が得られるなら、覚えた仕事で、よりたくさんの貢献をしたいと思っています。

2 被災地の復旧・復興の状況

南三陸町志津川や岩手県陸前高田市中心部の市街地嵩上げ事業のスケールの大きさにも目を見張りましたが、最も印象深かったのは、受け持ち地区の一つである気仙沼市杉ノ下のネギ畑です。普通なら一面穀物に覆われている空間に、見渡す限りネギが広がり、生まれて初めての光景でした。ちょっとは被災地の皆さんのお役に立てているかな…と感じました。



3 被災地へ派遣となって感じたこと

今春、東北へ赴いたきっかけは、日本災害情報学会の一員として東日本大震災の被災地調査に回った際の思いにあります。単なる学術研究では、被災地から今後の教訓を得たり、将来に向けた提言はできたとしても、今、目の前で苦しんでいる人々に直接フィードバックできる効果はありません。尊敬する初代会長廣井脩教授は、避難所の被災者と膝を交えて聞き取り調査した延長で、生活再建支援の拡充など多様な成果を成し遂げられました。私にはとても真似のできないことですが「何か力になれることはないか」という思いから被災地派遣職員に志願しました。

皆様、是非、杜の都仙台にお越しください。そして、東北ならではの風土、絆を大切に自分よりも相手のことをまず思いやる人々に接していただき、何か心の中に暖かいものを持ち帰ってください。